



男声合唱団 昂ニュース

No.806
2024.4.19

発行：男声合唱団 昂
レッスン会場：
大阪市中央区谷町7丁目1-39
谷町第2ビル308号 ねむかホール
連絡先：090-6058-5652(立川)

昂友の会・うたごえ喫茶 楽しく開催！！



いつもながらに軽妙な司会の立川さん



最後は輪になって歌いました

うたごえ喫茶に38人！

4月7日、「昂友の会」主催の2回目の「うたごえ喫茶」が、ねむかホールで開催されました。

司会の立川さんが、「春だ、春だ」と手をたたきながら開会。続いて「花の街」「さくらよ」「花は咲く」と、春が来たのを喜び会いました。

その中の「さくらよ」は、広島原爆後に咲いたさくらの歌で、立川さんの解説を入れながらの歌唱指導で歌いました。

途中、昂は「いざ起て戦人よ」と吉川さんのソロ入り「ゆらゆら春」を演奏し、大きな拍手を頂きました。

今回のうたごえ喫茶は休憩なし、飲み物とお菓子はバイキング方式、さらに二つ目の歌集が追加されるなどして行われました。そうした中、友の会の会員さんが一人増え、会員は23人となりました。

初めて来られた方から、次も来たいと言っていた

4月～5月の活動予定 (会議を除く)

- 4/19(金) 18:00 定例レッスン
- 4/21(日) 14:00 定例レッスン
- 4/26(金) 13:00 平和遺族会のつどい
- 5/ 3(金) 13:30 声楽中村教室
- ” 18:00 定例レッスン
- 5/ 5(日) 14:00 昂友の会定例練習会
- 5/ 7(火) 15:00 T1・T2パートレッスン
- 5/ 9(木) 17:00 声楽千秋教室Ⅱ(5/16(木)へ変更)
- 5/14(火) 13:30 声楽千秋教室Ⅰ
- ” 18:00 Br・Bsパートレッスン
- 5/16(木) 16:30 声楽千秋教室Ⅱ(時間に注意、16:30～)
- 5/17(金) 18:00 定例レッスン
- 5/19(日) 14:00 定例レッスン (5/31(金)へ変更)
- 5/31(金) 18:00 定例レッスン (時間に注意、18:00～)

♪できました。

参加は全体で38人。内訳は一般14人、友の会8人、昂16人、歌った歌は26曲でした。

最後は写真のように丸くなって「みんなのうた」を歌ってお別れしました。

岡邑洋介



石川澄さん宅を弔問しました！

4月5日、石川澄さん宅を千秋団長や伊藤さん、清水さんなどと共に弔問しました。石川さんは藤後さんや本並さんと共に昂の結成に深く関わられた方でしたが、今年1月29日逝去されました。

葬儀は地元の方のみで行われたのでこの日の訪問となりました。

遺影の前で歌った後、奥様から家の前でも歌ってほしいとの要望があり、石川さんの冥福を祈り「紫金草物語」を、心を込めて歌いました。 岡邑



指揮者坂井さんから、合唱発表会演奏曲「思い出すために」と「アメイジング・グレイス」について、詩と曲両面から理解が深まるように寄稿していただきました。じっくり読んで自分のものにして歌いましょう。

「思い出すために」

「思い出すために」を理解するためには、まず寺山修司について理解する必要があると思います。

ご存じの通り、寺山修司は劇作家・作詞家・映画監督…などなどさまざまな肩書きを持っていました。

人から「職業は？」と尋ねられると「僕の職業は寺山修司です」と答えたと言われています。

寺山修司の世界観を知るには、映画『田園に死す』がおすすめです。

恐山や自分の出生をめぐる劇中劇などでストーリーが展開していきますが、圧巻なのはそのラストシーン。

主人公が母と二人でちゃぶ台の食卓を囲んでいると壁が倒れ、新宿の街中でご飯を食べているという異様なシーンとなります。

まるで「すべての劇は虚構だ」とでも言わんばかりです。

寺山詩もどこかこのような特徴があり、言葉遊びのように積み重ねられる羅列を、最後の一言でさっと真逆に展開させてしまうのです。

〈種子〉では「種子を蒔くことができるか？」という問いの連続が「恋人よ 種子はわが愛」という一言で解決しますね。

〈思い出すために〉も同じ構造で、「忘れてしまいたい」という言葉でおそらく「お前＝恋人」との思い出が綴られていきます。

なので「お前のことを」は思い出自体ではなく直接想いが対象に及んでいるので音楽も執拗なものになります。

なぜ忘れたいのか？という理由がわからないまま聞き手は混乱しますが、最後に「思い出すために」忘れたかったのだという真逆の言葉で意味が転回する、というおもしろさがあります。

音楽的にいくつかの場面に分けて解説すると、

○1～7小節：前奏部

○8～41小節：「セーヌ川」と「はじめてのくちづけ」が思い出のなかで印象深かったのだろうか

○42～54小節：「希望の旅」や「朝の光」は思い出があれもこれもと蘇ってくるイメージ

○55～61小節：「お前のこと」は具体的に対象の姿が思い出されて、愛憎入り混じったような場面

○63～77小節：より鮮明に、最初の「セーヌ川」と「はじめてのくちづけ」が蘇っている

○78～93小節：スキヤットの表現は言葉にならない想いを託すことが多い。ここは他にもたくさんある思い出を音楽で昇華させたような感じか

○93～103小節：ここまで聞き手は「なぜ忘れたいのか」がわからないまま激しい表現を聞いているが、「初めての愛だったから」の理由で疑問がひとつ氷解する

○104～123小節：再び激しい「お前のことを」の音楽。「忘れたい」と真逆の「思い出すために」という言葉がクライマックスになる

「アメイジング・グレイス」

「アメイジング・グレイス」のまず詩についての特徴です。

元の曲は唯一神であるGodに感謝といった意味が強いですが、この訳詞は日本人の八百万の神という宗教観に合わせて作られていますね。

さらに1番から2番で壮大な人類の歴史を歌い、3番は戦争の歴史、4番は未来・地球といった壮大なテーマに進化しています。

そして森先生の編曲ですが、元曲のゴスペルチックな部分を活かして編曲されたのでしょうか。

2番3番がスウィングで歌われます。『天使にラブソングを…』のような感じでしょうか。

4番は最初カノンで落ち着きますが、そこから男声合唱の良さを活かしたどこまでも広がるイメージを共有できたらいいですね。

指揮者 坂井威文

出演予定

4/26(金) 平和遺族会

大阪府教育会館「たかつガーデン」

13:00～リハーサル 13:30～出演（オープニング）

衣装：赤シャツ、9条バッジ

演奏曲：いざ起て戦人よ、歓びのナーダム、

白樺、鶴、人間のうた、昴

（「青い空は」を会場とつしよに歌います）



②地下鉄谷町線：谷町九丁目駅・近鉄①出口から500m